

平成27年度 生駒市立学校給食センター運営協議会〔第2回〕会議録

1. 日 時 平成27年12月25日（金）午後3時00分～午後4時42分

2. 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3. 日 程

（1）教育長挨拶

（2）案件

学校給食の異物混入について

- ・混入の経緯について
- ・再開に向けた取組について
- ・今後の予定について

4. 出席者

（委員）

出口 隆司（会長） 根津 智子 福岡 ひとみ 井上 園子
西岳 靖弘 人見 厚子 岩崎 愛 松岡 宏明 田中 敬子
井上 廣 （関係者 東條 幸一 奈良県郡山保健所衛生課主幹）

（事務局）

教育長 中田 好昭
教育総務部長 峯島 妙
給食センター所長 奥田 茂 係長 松下 正治
主査 西谷 壮央
栄養教諭 井上 舞

5. 欠席者

（委員）

上西 均

6. 傍聴者

報道 1名 一般 7名

議 事 等

○ 開会及び傍聴報告

○ 教育長挨拶

○ 配布資料の確認

○ 案件

(会 長) 委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。
学校給食への異物混入について事務局より説明願います。

(事務局) 資料1 ～資料8 について説明

(会 長) 12月9日の件は、白菜の籠が落下して回収時に床材が混入したが、落ちた食材を使ったという認識でよいか。

(事務局) 白菜は4つ切り後籠に入れ下処理で3回洗うが、安定が悪く落下した。その際、調理員が拾い上げたのが原因。本来は、洗浄前なので上の部分だけを使用すべきところを全部使用してしまった。

(会 長) 説明にもあったが、子ども達の精神面のケアや、そのようなことが日常的なことであったのか等、保護者は心配している。

(委 員) 食品衛生の観点では、文科省から出ている学校給食衛生管理マニュアルに基づいていたと思うが、それが十分徹底されてなかったのかも。今回をきっかけに厚生労働省から出ている大量調理マニュアルに基づき、保健所の専門員が助言した。健康面では、適切に受診し、健康被害はないとのことによかった。

(会 長) 文科省のマニュアルに基づき学校給食センターのマニュアルの改訂等信頼回復に努めていただきたい。生駒小学校の児童が病院で受診したが、当日の状況、様子を報告してほしい。

(委 員) 当日、何名かの児童が異常を訴えたので、喫食を中止し、詳しく調べようとした。病院で診察を受けた児童達は帰るのが遅くなったが、保護者が来校し、午後 6 時頃には無事に全員帰宅した。

(会 長) 児童に健康被害がなかったことは不幸中の幸いだが、保護者から心配と怒りの声が出ている。学校で保護者からの意見があれば、報告してほしい。

(委 員) 一番多いのは、異物が混入した状態の問い合わせ。

(会 長) 保護者が心配しているのは給食を再開して、再度異物が混入しないかということ。14 日の異物混入事件は、調理員が故意に入れたと報告を受けたが、故意の有無に拘わらず、短期間に 2 件の異物混入が発生した。医学的観点から、今回の事件に関して、その危険性を教えてほしい。

(委 員) 口の中が切れたとの来院が 1 件あったが、特に問題はなかった。その床材は、エポキシ樹脂というものか。

(事務局) 床をコーティングしているもので、硬化したものについては、食べても害はなく、自然に体外に排出されると専門家に確認している。

(会 長) すき焼き煮の肉の硬い部分と思ってそのまま飲み込んでしまった児童もいる。大きいものだと、口の中を切ったり、飲み込んだ後に消化器官に刺さる等の危険性もあるので、その点十分に危険性を認識してほしい。

(委 員) 落ちたものをどう扱うかをきちんとマニュアル化し、それを遵守すれば、もう発生することはなくなるのではないか。14 日の件は、従業員の教育に尽きるのではないか。

(会 長) モラルの欠如の問題、床に落とした際の対応をきちんとマニュアル化されていればよかった。そのあたりを踏まえ、ヒューマンエラーの部分もあるが、マニュアルでしっかりカバーし、しっかりと指導するこ

とが重要。14日に給食を中止した際、上中とあすか野小がすでに喫食していたが、その給食中止のタイミング、その対応のマニュアルはあったのか。学校現場での対応について、意見がほしい。

(委員) 報告を受けた後、明日以降の給食がないとの連絡が大変遅い時間になった。保護者にとって、弁当が必要となるのかどうかは判明したのが、本校の場合午後7時前だったので、保護者は大きな不満を持ってしまった。今後、連絡ルートを定めておくことが大事であるかと思う。

(会長) 児童が午後から帰されたが、留守の家庭が多く、家に入れずに友人宅に行ったり、かなり不便だったとの意見が出ている。

(委員) 急に給食が無くなり、弁当の持参等で急遽対応しないといけないこともあり、保護者も苦慮したようだ。

(会長) 帰宅については、不審者も多いので何か事件に巻き込まれることがあれば何のことかわからなくなるので、今後取り決めをしていかないといけない。給食中止は、どのタイミングで行うのか、学校救援物資では対応できなかったのか、その点を見直して、時間どおりに子ども達が帰れるような形の対策を取ってほしい。保護者が働いている家庭が多いので、給食中止時のタイミング、その対応についてマニュアル化し、徹底することが一番重要。中学校での状況について、意見をいただきたい。

(委員) 仕事している保護者から対応についての意見があった。通知のタイミング等について見直しが必要だと思う。

(会長) 学校毎にメール配信だとか通知方法が相違している。通達の誤差があるので、その点を含め、いち早く知らせる方法が一番のポイントだと思う。市PTA協議会にも保護者から意見が多数寄せられている。

(委員) 生駒小の件では、生駒小学校以外の他校には文書が出なかった。同じ給食センターで作られているので、全校に連絡していただきたい。

ニュースには流れていたが、そういう点の配慮をして頂きたい。説明を聞いたが、なぜ剥離したものが入ったのかが謎で、はっきりしていない。釜が 1,000 人分炊けるのなら、生駒小学校が 635 食と考えると、同じ鍋で炊いたものが生駒小と違う学校にも行ったのではないか。

(事務局) 現在のセンターの規模では、1 回炊くだけで 11,000 食は作れない。同じ釜で 3 回炊いている。例えば北小と俵口小については一緒に炊くが、生駒小学校分は一校だけで炊いている。

(事務局) 9 日の生駒小学校分については一つの釜で調理し、材料として白菜を 4 籠分使った。

(委員) その説明で、そこだけで納まったということがわかった。14 日の件で、児童生徒を早く帰宅させてしまったことは、親にとってはすごく困る。低学年は鍵を持っていないし、今回の事案は、学校から早急に帰さなくてはならない事案ではなかったと思う。家庭と連絡を取り合い、安全確認の上で帰す対応が出来なかったのか。学校にいても命に関わることはないが、もし学校からすぐに帰らせないといけない事案が出た時に、わが子はどうするのかということを各家庭で話をしておかなければいけない事柄かなと思う。危機管理について、丁度いい機会として見直してほしい。いろんな研修も考えているようだが、これが 12 日の再開に間に合うのか不安なところもある。今までの、ちょっとした異物の混入の範囲が、許される範囲であるのかということも見直していただきたい。今回は、目に見えるものであったが、それが目に見えないもの、ウイルス性のものとかその辺をしっかりとしていただきたい。受験生を抱える中学生の親からはすごく心配の声がある。

(会長) 保護者への連絡が遅くなり、マスコミ情報が先に走ってしまっていた。14 年前に保育園で O157 が集団感染したときも、マスコミが先に報道して情報が入手されたことがあった。市からきちんと保護者に向けての情報を正確に早くしないと、マスコミは色々書いてしまうので、正確な情報が行かなくなる。

(委 員) 昼で帰すには無理があったように思う。ビニール片が入った件については、持ち込んだということだが、その場合のチェックはないのか。もう少し危機感を持ってもらいたい。経験上から、プラ製品を使っている点が良い、やはりステンレス製で耐性を重視した方が良い。老朽化ということなら、機械の方から混入することも考えられる。

(会 長) その点、作業服の見直しの説明があった。異物が混入出来ないように更なる防止策の対応をしてほしいというのが保護者の意見だと思う。1月12日に給食再開予定となっているが、何を根拠として安全性が担保されているのか、12日再開方針について教えていただきたい。

(事務局) 床の改修と監視カメラ設置の工事を、冬休みの間に急ピッチで進めており、12日に再開する方針に変わりはない。万が一何らかの事情で遅れる場合は、センターから提供が出来なくても給食は実施するという意味あいでの再開であり、センターありきの再開ではない。

(会 長) 7日に給食再開に向けた文書が発表され、その後センターで提供可能なかどうか検証し、無理な場合は給食センター以外の所からの提供を考えているということか。マニュアルをきっちりと策定し、職員研修を実施することにより、初めて給食センターの安全性が担保できると考える。切裁機の刃が欠けるとか、そういう機材の点検はやっているのか。

(事務局) 点検は行っており、刃が欠けていないことを確認して続行している。

(会 長) 調理手順だけでなく、機材の点検といったところもマニュアル化していく必要があるのではないか。今回の事件では、給食を中止させて作業工程を見直してほしかったとの供述をしているとの報道があるが、勤務体制及び作業工程上の問題点はなかったのか。その様なことがあれば、また同じような事件が起こるのではないかと心配の声もあるので、その点を含めてマニュアルをきちんと改定していただきたい。

(委 員) マニュアルをどのように改正したのか、保護者代表に報告するのか。

一度見学等をしながら、改善された点に関して報告はいただきたい。

(教育長) 行政には、市民に対し安心安全に関する説明責任がある。給食センターは見学会も出来る。一般でも見学出来るように広報等で周知したい。マニュアルについては、運営協議会で報告したいと考えている。

(会 長) そのマニュアルは、市で作成するのか。

(教育長) マニュアル作成は調理現場が作るべきだと考えている。職員自らが問題意識を持つことが大事だと考える。そういった意味も含めて、ちょっと時間をかけたいと思う。

(会 長) その検証は、どこか外部がするのか。

(事務局) 保健所からの意見も反映したものを委員に見てもらう。法令に基本的なおさえはあると思うが、そこに付加するかたちで、最終的には運営協議会で検証していきたい。

(会 長) 法律に基づいたマニュアルはないであろうし、食品会社等も独自で安全性を担保するため、専門家が見直していくということが必要ではないか。マニュアルの重要性を理解し、そのマニュアルを基に職員教育をしていかないと解決が見えてこない。また、センターの老朽化している設備の改修とかはぜひ実施していただきたい。マニュアルを作るうえで委員から重要なポイント等があるのか。

(委 員) 保健所は、食品衛生を担当している。ウイルス・細菌感染を極力抑える食中毒対策マニュアルを作っている。今回の事案は。食品衛生の部分と食の安全の部分の両方の部分が必要になってくる。保健所では、食品衛生のアドバイスは行っているが、食の安全に関しては、工学部門の奈良県立医科大学の教授が食品会社の異物混入マニュアルの策定に関連し国の検証委員会に入っていたので、その様な専門家の助言を受けたらどうか。

もう1点は、危機管理という観点で、関係機関である保健所への連絡

も義務ではないがいただきたい。給食センターにおける危機管理で、こういう事態にはどこに連絡するのか、また、学校現場での危機管理体制、すなわち児童生徒をどういった時にどうするのかとか、健康被害があった時にどういう医療機関と連携するのかという事を見直していただきたい。

（会 長） 学校における危機管理、給食センターでの危機管理の観点でマニュアル作成をお願いしたい。また、そういう専門家の助言を基にした、内容のあるマニュアルを作成していただきたい。今回の事件を教訓に、きちんとした対応をすれば、信頼回復への道筋ではないかと考えている。

（事務局） マニュアルづくりには着手しているが、時間的に厳しい。マニュアルが出来次第、会議を開きたい。

（会 長） マニュアルを作って、職員の研修をしてそれで安全に遂行できるかがひとつのポイントではないか。マニュアルをいつまでに作成し、会議を開くかといった工程づくりをお願いしたい。

（委 員） 保護者は、きちんとしたマニュアルが出来て、改善内容の報告がないと、給食センターに対する不安は払拭できない。全部が完璧なマニュアルは求めないが、どれだけ変えたのか、目に見えないのが心配。

（事務局） マニュアルは、本会議で検証したからといってそれが完璧だといえない。他市にも照会したが、改善策を講じたうえで、チェック体制を強化し、マニュアル検証についても平行して進めながら、学校給食を止めない行政サービスを進めていくのが、保護者が望む方向であると考えている。万一、これを先延ばしさせた場合、子ども達の給食の確保について、11,000 食を受けてくれる民間企業はない。これについて、弁当を持参させるかどうかの大きな方向転換となり、就労している保護者、家庭の事情等もあり、給食は定着しているものと考えている。12 日からの再開に向け、一定のスケジュールに基づき進めていきたい。

(保健所) 今回の件では、当初から色々と指導したが、現状としてやっていることで、今までも大きな事故の発生はなかった。そこを大きく変えることは、非常に危険と思われるので、今あるマニュアルにプラス何かを付加するという形がいい。文科省のマニュアルは異物対策の強化等の見方は非常に薄い。衛生課では、企業の異物混入のこともあるので、その辺もアドバイスするので、みんなに解かり易いマニュアルを作成させていければいい。

(会 長) 安全な給食の提供が大前提なので、7日にそのあたりの説明をきちんとし、その中で給食を再開するのが一番かと思う。現状の給食センターの問題点について、専門家の意見も取り入れながら改修等を行い、最終保護者にもお知らせする、3学期以降になると思うが、こういった形で給食を再開しますといった形で、12日再開、7日通知の取組をしてほしい。

生駒市は中学校給食があるので、県下でも、保護者は大変ありがたいと思っている。安全対策をきちんとすることが出来れば、続けることが一番であり、保護者も望んでいる。折角の行政サービスを無駄にする必要はないので、その点を踏まえ対応してほしい。

(事務局) 保護者に解かりやすい文章にしないとならない。広報誌は紙面が限られるので、保護者宛文書に落とした食材の扱い等をどこまで記載するか。7日の配布文書を事前にファクスで委員に確認してもらうのが、時間的ロスも少ない、7日の始業式に配布したいので、出てきた意見は、有識者の意見を聴いたり、法令を参考にしていけば保護者も安心ではないか。そういう方向で、会議は未定だが前日に見ていただく。

(会 長) それで結構かと思う。

(事務局) 22日に保護者あてに通知した時点から、ここまでやったという部分を含めて周知をしたい。1月以降、マニュアルの経過報告を含めて運営協議会を開催しようと考えているが、その時はセンターで開催して改修後の施設を見てもらい、保護者にも開かれたセンターにしたい。

(会 長) センター見学については、随時ということで対応していただく。7 日の文書の作成と配布をよろしく願いしたい。

(委 員) マニュアルが給食センターの中の話になっているが、緊急時の連絡体制、そういったものもマニュアルに含めていただきたい。学校間での温度差があったので、そういうことも統一していただきたい。

(会 長) 再開に向けて取り組みを進めていただき、いいかたちで再開出来るように、我々も祈っている。

～ 閉 会 ～